



## 電気通信普及財団賞(テレコム・コロンプス賞 社会科学部門)受賞論文

### 平成03年 第1回 入賞

論文	著者	所属	評価
<p>発展途上国における医療並びに電気通信の規範的政策</p> <p>書き下ろし</p>	依田 高典	京都大学経済学部修士2年	発展途上国における医療と電気通信の開発を、全世界をカバーする4基の通信衛星の利用により提言した論文で、着想が評価できる。

### 平成03年 第1回 入賞

論文	著者	所属	評価
<p>公益事業における自然独占性の検証法に関する実証的研究</p> <p>東工大・社工・論文梗概集</p>	高嶋 裕一	東京工業大学大学院卒	わが国の電話事業と電力事業について、豊富な統計データを用いて「自然独占性」の指標により計量的に分析したユニークな研究であり、今後の発展が期待できる意欲的な論文である。

### 平成03年 第1回 佳作

論文	著者	所属	評価
<p>メディアと選挙・政治</p> <p>書き下ろし</p>	田井中 雅人	早稲田大学政治経済学部5年	選挙・政治に与える映像メディアのインパクトを指摘し、パソコン投票などの成長を展望した論文で、今後の展開が期待される。

## 電気通信普及財団賞(テレコム・コロンプス賞 社会科学部門)受賞論文

### 平成03年 第1回 佳作

論文	著者	所属	評価
伝言界で逢いましょう	宮腰 温	埼玉大学教養学部3年	伝言ダイヤルやダイヤルQ2など特に若者のコミュニケーションのための情報空間を論じた論文で、今後の研究が期待される。
書き下ろし			

### 平成04年 第2回 入賞

論文	著者	所属	評価
企業等によるテレコミュニケーションの導入に関する研究	国井 昭男	筑波大学大学院卒	日本のテレコミュニケーションについて、その導入の背景・実態やワーカーの意識をアンケート調査により分析し、新しい最適勤務形態として企業組織や業務のあり方を指摘した優れた研究論文である。
書き下ろし			

### 平成04年 第2回 佳作

論文	著者	所属	評価
豊かさの追求と情報化の重要性	秋保 真智子	高崎経済大経済学部経営学科4年	東京一極集中問題の解決策として地域の情報化による情報格差是正を論じた論文で、今後の研究が期待される。
書き下ろし			

## 電気通信普及財団賞(テレコム社会科学学生賞)受賞論文

平成05年 第9回 入賞

論文	著者	所属	評価
<p>情報発展都市の混雑税・補助金に関する一般的均衡分析</p> <p>修士論文</p>	<p>渋沢 博幸</p>	<p>豊橋技科大学院知識情報工学専攻</p>	<p>情報通信ネットワーク利用の遠隔勤務及び混雑税補助金システムが消費・余暇行動などに与える影響をシミュレーション・モデル分析によって解明した論文である。</p>

平成05年 第9回 入賞 論文番号:001

論文	著者	所属	評価
<p>メディア技術の開発・普及と知的財産権</p> <p>書き下ろし</p>	<p>児玉 晴男</p>	<p>東大大学院工学系博士課程</p>	<p>従来の印刷技術による書籍から電子出版に至るメディア技術の発展に伴う学術情報について、法的保護の立場から考察した力作である。</p>

平成05年 第9回 入賞

論文	著者	所属	評価
<p>高度情報社会における広告戦略の新段階</p> <p>書き下ろし</p>	<p>稲葉 治久</p>	<p>早大大学院法学研究科研究生</p>	<p>米国と日本における比較広告の発展・停滞理由について事例分析と法律的検討を行った優れた論文である。</p>

## 電気通信普及財団賞(テレコム社会科学学生賞)受賞論文

平成05年 第9回 入賞

論文	著者	所属	評価
<p>情報化に対する受容態度の分析</p> <p>書き下ろし</p>	村田 晴路	京大大学院人間環境学博士課程	情報化社会に対するイメージ、潜在的ニーズ、適応能力をユニークなアンケート調査により分析した優れた論文である。

平成05年 第9回 入賞 論文番号:011

論文	著者	所属	評価
<p>情報技術の高度化と情報メディア産業秩序の変容</p> <p>書き下ろし</p>	岸本 好正	慶應大学法学部政治学科4年生	衛星放送など情報技術の高度化による放送サービス産業秩序に及ぼす影響と動向をアンケート調査により分析した優れた論文である。

平成05年 第9回 入賞 論文番号:006

論文	著者	所属	評価
<p>都市型CATVの普及要因</p> <p>書き下ろし</p>	菊野 賢次	慶應大学院経営管理修士課程修了	米国・カナダに比べて普及が遅れている日本の都市型CATVについて、その普及要因を事例研究により分析・検証した示唆に富んだ論文である。



## 電気通信普及財団賞(テレコム社会科学学生賞)受賞論文

平成06年 第10回 入賞 論文番号:006

論文	著者	所属	評価
『国際コミュニケーション研究』における「文化多元主義論」についての一考察  書き下ろし	邱 俶?	一橋大学院社会学博士課程	世界における情報の流れの変化を、テレビ番組を例にとって文化多元主義論の立場から分析し、論じた力作である。

平成06年 第10回 入賞

論文	著者	所属	評価
21世紀を展望した中国の移動通信  書き下ろし	李 智萍	亜細亜大学国際関係学部卒業	日米欧における移動通信発展の歴史と現状の分析に基づいて、中国の移動通信についてとるべき政策を提言した優れた論文である。

平成06年 第10回 入賞 論文番号:001

論文	著者	所属	評価
マルチメディアの社会的影響に関する考察  書き下ろし	山根 啓史	桃山学院大学院経営学修士1年	マルチメディアの代表的なアプリケーションについて広範な視点から社会的影響を分析し、その普及の条件を探った優れた論文である。

## 電気通信普及財団賞(テレコム社会科学学生賞)受賞論文

平成06年 第10回 入賞 論文番号:016

論文	著者	所属	評価
マルチメディア時代の『ネットワーク犯罪』  書き下ろし	小前 収	慶應大学法学部法律学科4年	パソコン通信など開かれたネットワーク内の犯罪を新しい犯罪として着目し、法的対応を提言した優れた論文である。

平成06年 第10回 入賞 論文番号:012

論文	著者	所属	評価
次世代の通信インフラ、I SDNの現状と問題点および今後の展望  書き下ろし	本間 潤樹	亜細亜大学国際関係学部卒業	日本におけるISDN普及促進のための課題を、現状の詳しい考察に基づいて整理し提言をとりまとめた優れた論文である。

平成06年 第10回 入賞

論文	著者	所属	評価
電脳社会学「脱バーチャルリアリティー」  書き下ろし	小島 幸博	多摩大経営情報学部卒業	バーチャルリアリティーのもたらす大きな影響と未来の姿を指し示した着眼点と表現力に優れた論文である。













## 電気通信普及財団賞(テレコム社会科学学生賞)受賞論文

平成08年 第12回 入賞 論文番号:020

論文	著者	所属	評価
電気通信産業の規制緩和における経済効果分析 -NTTの全要素生産性分析-  修士論文 '96.3を加筆・修正	芝田 隆志	青山大学大学院経済学研究科修士課程修了	規制緩和による経済効果を、具体的データをよく収集整理して実証分析した優れた論文である。

平成08年 第12回 入賞 論文番号:019

論文	著者	所属	評価
電子媒体を用いた表示に関する実体法上の問題の検討-誤った表示が伝達された場合を中心に-  修士論文 '96.3を加筆・修正	佐藤 卓	東北大学大学院法学研究科博士課程前期2年修了	電子取引における表示の法律問題について、堅実な文献研究をもとに論じた好論文である。

平成08年 第12回 入賞

論文	著者	所属	評価
「電子新聞」のマネジメント -コスト・アプローチ-  書き下ろし	土井 正	東北大学院経済学研究科博士前期	電子新聞事業について、経営およびコスト管理面から検討した、テーマの新鮮さと視点の良さが評価される論文である。







## 電気通信普及財団賞(テレコム社会科学学生賞)受賞論文

平成09年 第13回 入賞

論文	著者	所属	評価
<p>ジャスコ・花王のEDI導入の実証的研究 -チャネル・パワー論批判の出発点として-</p> <p>書き下ろし</p>	藤田 健	神戸大学大学院 経営学研究科 前期博士課程	チャネル・パワー・コンフリクト論では捉えられない状況を大手メーカー(花王)と大手小売(ジャスコ)を調査対象として分析した堅実な好論文である。

平成09年 第13回 入賞 論文番号:051

論文	著者	所属	評価
<p>競争環境下のユニバーサル・サービス政策 -「公正と効率」の共存をめざして-</p> <p>書き下ろし</p>	金正勲	中央大学総合政策研究科博士1年	ユニバーサル・サービスと競争という構図で「公正と効率」を理論的、歴史的に分析し、共存のためのシステムを具体的に提唱した意欲的な論文である。

平成09年 第13回 入賞 論文番号:103

論文	著者	所属	評価
<p>高度情報通信社会における電子決済の法政策的分析 -決済手段の電子化と決済方法の電子化-</p> <p>書き下ろし</p>	岡田 仁志	大阪大学大学院 国際公共政策研究科 博士課程2年	電子決済について大蔵省金融制度調査会の報告書でいう「決済方法の電子化」と「決済手段の電子化」とに区分しながら公法上、私法上の問題を手際よく分析した好論文である。

## 電気通信普及財団賞(テレコム社会科学学生賞)受賞論文

平成09年 第13回 佳作 論文番号:069

論文	著者	所属	評価
WWWの規制問題と利用者の責任  書き下ろし	山口 康之	一橋大学社会学部	インターネットにおける違法又は有害なコンテンツの規制問題について分析し、利用者の自己責任を強調した今後の研究が期待される論文である。

平成09年 第13回 佳作 論文番号:097

論文	著者	所属	評価
開かれたネットワークは企業・産業・社会をどう変えるかーサイバービジネスのゆくえー  書き下ろし	阿野 大輔 堤 智子 長谷津 秀明 木村 哲也 渡辺 仁士 曾 毅 池澤 裕 嶋村 定昭	立命館大学経営学部4回生 同 同 同 同 同 同 同	製造業、流通業等におけるサイバービジネスについて多角的に検討しており、今後の研究が期待される論文である。

平成09年 第13回 佳作 論文番号:110

論文	著者	所属	評価
中小企業におけるCIM構築の必要性と問題点  書き下ろし	中尾 真由子 壺内 博志 柏木 隼人 鈴木 宏美 鈴鹿 智之 境 竜介 谷本 晃英	立命館大学産業社会学部4回生 同 同 同 同 同 同	中小製造業における「俊敏性」を確立するために市場即応型生産システムとして CIMの構築が必要であるとした意欲的な論文である。

## 電気通信普及財団賞(テレコム社会科学学生賞)受賞論文

### 平成09年 第13回 佳作

論文	著者	所属	評価
グローバル情報システムと国際経営 -NECの事例-	藤原 由紀子	神戸大学大学院 経営学研究科 博士後期課程1年	国際生産情報システムの導入が日本企業の国際経営に与える影響について論じた意欲的な論文である。
書き下ろし、修士論文			

### 平成10年 第14回 入賞

論文	著者	所属	評価
企業組織におけるSOHO導入のインパクト -新しいメディア利用による組織変革の可能性-	松嶋 登	神戸大学大学院博士前期課程	SOHOに関する分析の切り口と研究課題を明らかにするとともにHOを実際に導入している事例を分析し、仮説を提示した力作である。

### 平成10年 第14回 入賞 論文番号:071

論文	著者	所属	評価
ネットワーク上の顧客間インタラクション	森田 正隆	慶應義塾大学大学院修士課程	情報論や電子会議について深く考察し、電子ネットワーク上での消費者間の相互作用について文献研究と事例研究を行い、仮説を設けてそれを検証した力作である。
修士論文			

## 電気通信普及財団賞(テレコム社会科学学生賞)受賞論文

### 平成10年 第14回 入賞

論文	著者	所属	評価
サイバースペースにおける名誉毀損 -ニフティ事件判決を考える-	土屋 志帆	法政大学法学部4年	ニフティ事件の損害賠償請求訴訟の判決から、サイバースペースで起こり得る名誉毀損について、アメリカの判例を分析し、関係者の責任について比較法的にまとめた力作である。
書き下ろし			

### 平成10年 第14回 入賞

論文	著者	所属	評価
功利主義再考 -情報化社会における民主主義の問題-	高橋 陽子	名古屋大学大学院博士前期課程	近代政治思想を取り上げ、功利主義的自由主義に個人の利害対立と民主主義との接点となる思想を求め、情報化社会の光と影について問題を論じている哲学的でユニークな論文である。
書き下ろし			

### 平成10年 第14回 入賞

論文	著者	所属	評価
郵政省の情報公開・説明責任 -グローバルスタンダード適応に向けて-	橋本 佳恵	甲南大学経済学部4年	アメリカのFCCや州公益事業委員会、イギリスのOFTELの例を検証し、日本の電気通信を所管する郵政省の行政に対する改善策をまとめた論文である。郵政省の情報公開・説明責任に着目して大胆に論じた力作である。
卒業論文			

## 電気通信普及財団賞(テレコム社会科学学生賞)受賞論文

平成10年 第14回 佳作 論文番号:062

論文	著者	所属	評価
電電公社民営化の実態とその展開過程	羽瀨 貴司	大阪市立大学院博士課程後期1年	電電公社の事業展開がコンピュータと通信の融合化の中で、公社という経営形態と矛盾を来し始めたところに民営化の起点があるとの観点から、市場環境・経営環境のあり方に重点をおいて分析し、手際よくまとめた作品である。

平成10年 第14回 佳作

論文	著者	所属	評価
インターネットによる社会変革の可能性ー公益的情報空間としてのインターネットの可能性ー	升田 徹	立命館大学産業社会学部4回生	現代的メディアであるインターネットにより構築される情報空間を(1)公益的 (2)公共的 (3)私的という3つのジャンルに整理し、公益的情報空間に情報流通を促すことが社会変革を引き起こす可能性へつながると論じた力作である。

学部卒業論文

平成10年 第14回 佳作

論文	著者	所属	評価
電子マネー実現に向けての私法的考察	西尾 尚紀 岡崎 多香	東京大学法学部4年 同	電子マネーの普及には法的問題の明確化と制度の整備が不可欠という認識のもとに、既存の決済方法(現金及び預金通貨)とのアナロジーから現行法の限界を私法的側面から指摘し分析した優れた作品である。

書き下ろし





## 電気通信普及財団賞(テレコム社会科学学生賞)受賞論文

平成11年 第15回 佳作 論文番号:107

論文	著者	所属	評価
現代社会における若者のパーソナル・メディアコミュニケーションー双方向性移動体通信における文字通信の意義ー  書き下ろし	大沼 修一	東北学院大学大学院 人間情報学研究科 博士前期課程2年	移動体通信が音声通信から音声・文字通信の併用型に変貌し、時差コミュニケーションも可能になった過程を詳細に分析し、現代若者のメディア観を論じている力作である。

平成11年 第15回 佳作 論文番号:046

論文	著者	所属	評価
財産情報の刑法による保護について  書き下ろし	長岡 範泰	同志社大学大学院 総合政策科学研究科 博士前期課程2年	財産的情報が日本の現行刑法では保護されていない状況を実証し、立法の必要性を展開しており、情報がグローバル化した今日における重要な問題を扱った優れた作品である。

## 電気通信普及財団賞(テレコム社会科学学生賞)受賞論文

平成11年 第15回 佳作

論文	著者	所属	評価
電子商取引における源泉地国課税の模索 -特に恒久的施設を出発点として-	浅妻 章如	東京大学法学部政治学研究所 修士課程1年	電子商取引における国際課税問題について源泉地国に課税権を認めてはどうか、税収配分について国家間でどうするか等の今日的に重要な課題について提言している優れた作品である。
書き下ろし			

平成11年 第15回 佳作 論文番号:102

論文	著者	所属	評価
東アジア地域におけるアメリカ製ソフト流通の考察	沈 成恩 高橋 良子	上智大学大学院文学研究科 新聞学専攻修士2年 上智大学大学院文学研究科 新聞学専攻修士2年	アメリカ製テレビ番組の日本及び韓国への流入状況とその文化的影響について実証的に研究した論文であり、文化へのテレビ番組の影響について論じた実証的示唆に富む力作である。
書き下ろし			

平成12年 第16回 入賞 論文番号:087

論文	著者	所属	評価
電気通信事業法と独占禁止法 -特に料金規制との関連において	鐘 文興	神戸大学大学院 法学研究科 博士前期課程2年	電気通信サービスの料金割引をめぐる二つの事件を題材にして、電気通信事業法および独占禁止法のあるべき姿を検討している。理論構成はしっかりとしており、「電気通信分野における競争制限的行為に実効的かつ包括的に対処するためには、競争促進のためのルール作りを行うことも必要である」という提言にも説得力がある。
修士論文			

## 電気通信普及財団賞(テレコム社会科学学生賞)受賞論文

平成12年 第16回 入賞 論文番号:088

論文	著者	所属	評価
日米の国際通信トラフィック交流の非対称性に関する実証分析  修士論文	武川 恵美	早稲田大学大学院 社会科学 研究科修士課程2年	米国の国際通信トラフィック交流の非対称性に関するCheogn & Mullins (1991)の先行研究で使われたモデルを用いて、日米の国際通信トラフィック交流の非対称性について分析した優れた実証研究である。

平成12年 第16回 入賞

論文	著者	所属	評価
『メディアと身体』を語るパラダイム —関係性としてのインターフェイスを手がかりに  書き下ろし	伊藤 耕太	同志社大学大学院 文学研究 科博士前期課程1年	携帯電話を介したコミュニケーションについて、先行研究を踏まえたうえで『メディアと身体』をテーマに論じている点に新規性がある。今後さらに掘り下げた研究が期待されることである。

平成12年 第16回 入賞 論文番号:056

論文	著者	所属	評価
電気通信分野における費用構造および競争政策に関する考察  書き下ろし	春日 剛 伊藤 由希子 小坂 賢太 引馬 誠也 吉田 弘毅	東京大学経済学部経済学科3 年 同 同 同 同	費用構造に着目して、長距離・国際と地域に通信事業を分類するとともに、日本の最重要通信政策が“地域通信事業の生産性をいかに向上させるか”であることを抽出した思考プロセスがユニークである。



## 電気通信普及財団賞(テレコム社会科学学生賞)受賞論文

平成12年 第16回 佳作 論文番号:089

論文	著者	所属	評価
次世代高速通信ネットワークの構築に向けての提言 ―通信インフラにおけるPFIの導入	阿部 拓也 北林 務 清水 養 常田 昌人	早稲田大学 政治経済学部 経済学科4年 早稲田大学 政治経済学部 経済学科4年 早稲田大学 政治経済学部 経済学科4年 早稲田大学 政治経済学部 経済学科4年	日本の通信サービスの後進性を日本の政治構造に踏み込んで深く分析している。政治の干渉を排除するためにはNTTを純粋民間会社にするべきだという提案、並びに、その方策として自治体主導のPFI方式による光ファイバー網の整備という提案は若者らしく、具体的で、野心的で、大胆さに溢れている。
書き下ろし			

平成12年 第16回 佳作 論文番号:072

論文	著者	所属	評価
日本企業におけるテレワーク定着への課題 ―適合化をめぐる事例の検証	品田 房子	立命館大学大学院 社会学研究科 博士前期課程2回生	日本におけるテレワークの定着を阻害する要因を検証し、日本の雇用形態および雇用慣行の問題点をうまくまとめている点が評価できる。
書き下ろし			

平成13年 第17回 入賞 論文番号:049

論文	著者	所属	評価
情報通信技術が組織へ及ぼす影響に関する研究 ―韓国企業における実証分析	朴 英元	東京大学大学院 総合文化研究科 修士課程2年	情報技術と文化や構造といった組織の特性との関係を、韓国企業でのアンケート調査により、実証分析を行った好著である。

## 電気通信普及財団賞(テレコム社会科学学生賞)受賞論文

平成13年 第17回 入賞

論文	著者	所属	評価
ITは日本経済を救うか？ —ITの経済効果の包括的研究—  研究会 タームペーパー	山崎 大祐	慶應義塾大学 総合政策学部 総合政策学科3年	ITが生産性向上、雇用創出などに与えるインパクトといった重要な問題について、学部生として意欲的に取組み、十分な研究成果を上げた。

平成13年 第17回 入賞

論文	著者	所属	評価
1996年通信法成立をめぐる政治過程 —NCTAの政治活動を例にして—  修士論文	清原 聖子	慶應義塾大学大学院 法学部 研究科 修士課程2年	日本でも注目を集めた米国の1996年通信法が成立するに至る政治過程を分析し、全米ケーブル事業者連盟(NCTA)の政治活動のインパクトを検証した好著である。ユニークな視点が評価できる。

平成13年 第17回 入賞 論文番号:111

論文	著者	所属	評価
WWWにおける情報検索行動の研究  修士論文	中村 知子	筑波大学大学院 経営・政策 科学研究科	WWWによる情報検索時の問題点について、アンケート調査等を踏まえて分析し、有効な支援策をコンパクトにまとめた論文である。実際に検索させて調査するという発想がよい。



## 電気通信普及財団賞(テレコム社会科学学生賞)受賞論文

平成13年 第17回 佳作 論文番号:099

論文	著者	所属	評価
電子決済普及に向けての対策	大橋 正悟	専修大学経営学部経営学科4年	電子商取引に不可欠な電子決済について、デジタルコンテンツなどの具体的な例を使いながら普及に向けての対策を論じている。学部生としてよくまとめている。
書き下ろし			

平成13年 第17回 佳作 論文番号:105

論文	著者	所属	評価
情報社会における生活者意識の分析	木津 賢二	関西学院大学大学院 総合政策研究科 修士課程2年	宇多田ヒカルと松任谷由実のヒット曲を分析対象として使い、情報社会における生活者の意識を分析している。発想がユニークである。
書き下ろし			

平成13年 第17回 佳作 論文番号:104

論文	著者	所属	評価
通信関連技術の個人領域への導入と著作権法—Napster事件を例に—	今村 哲也	早稲田大学大学院 法学研究科 修士課程2年	日本でも有名になった米国Napster事件を素材にして、現代的な著作権問題について論じている。興味深いテーマである。
書き下ろし			

## 電気通信普及財団賞(テレコム社会科学学生賞)受賞論文

平成14年 第18回 入賞

論文	著者	所属	評価
地方自治体のIT戦略 - 地方分権時代の情報化政策のあり方についての一考察	新井 直樹	高崎経済大学大学院 地域政策研究科 修士課程	地方自治体のIT戦略について、その課題を整理するとともに、横須賀市と藤沢市の事例を具体的にあげて例証している。考察もしっかりしていてよくまとまった論文である。

平成14年 第18回 入賞

論文	著者	所属	評価
組織による新技術受容と拒絶の要因 - 情報システム利用におけるインフォーマル・サポーターの役割 -  修士論文	川嶋 敦	法政大学大学院 社会科学研究科 修士課程2年	情報システム利用におけるインフォーマル・サポーターの役割に着目し、グループ・インタビューの予備調査を経て、3000サンプルのインターネット調査を実施し、その役割の重要性を実証した点が評価できる好論文である。

平成14年 第18回 入賞 論文番号:54

論文	著者	所属	評価
電気通信事業における技術基準とその法的責任 - デファクトスタンダードを中心に -  所属大学院のリサーチペーパー(修了論文)として	水野 勝成	東京大学大学院 法学政治学研究科 修士課程	電気通信事業との関連においてデファクトスタンダードに着目し、その法的責任を負う者、技術基準制定責任のあり方などについて多角的に論じている重要な主題についての考察であり、論旨も明確な好作品である。





## 電気通信普及財団賞(テレコム社会科学学生賞)受賞論文

平成14年 第18回 佳作

論文	著者	所属	評価
ブロードバンド時代の音楽産業－音楽流通システムの再編－	小林 由弥	青山学院大学 国際政治経済学部 国際経営学科3年	ブロードバンドによって変革を迫られている音楽産業について、仮説とその検証を通してその再編を論じている。多くの文献にあたり、よく整理された作品である。
青山学院大学国際政治経済学会『学生研究論文集』応募予定(提出予定日:2002年10月9日)			

平成15年 第19回 入賞 論文番号:087

論文	著者	所属	評価
黙って読んでいる人達(ROM)の情報伝播、購買への影響	小川 美香子	慶應義塾大学大学院 経営管理研究科修士2年	消費者の購買行動を誘発するうえで、ROMの意外な影響力、貢献を裏証したユニークな研究であると評価された。ROMがRAMにより提供される評価情報を伝播することなどについて、アンケート調査を元に検証した好論文である。
慶應義塾大学大学院経営管理研究科修士論文※今回の応募論文は字数制約により抜粋したものです。			

平成15年 第19回 入賞

論文	著者	所属	評価
オンライン店舗の信頼度規定要因と電子メールのメディア交互作用に関する実証分析	駒走 聡昭	筑波大学院ビジネス科学研究科修士2年	オンライン店舗への信頼性について仮説を構築し、実験計画を立て、それを構成する要因について分析した、丁寧で手堅い好論文である。
修士論文			

## 電気通信普及財団賞(テレコム社会科学学生賞)受賞論文

平成15年 第19回 入賞

論文	著者	所属	評価
次世代モバイル通信分野に関する一考察 —携帯電話事業者の次世代戦略と公衆無線LANの台頭の関係性を中心に—  卒業論文	北村 薫	東京経済大コミュニケーション学部コミュニケーション学科4年	携帯電話事業者の次世代向け取組みと公衆無線LANを軸に文献調査・インタビューその他の情報をもとに、問題点と将来の方向性を明らかにした点が評価された。重要なテーマを掘り下げた好論文である。

平成15年 第19回 入賞 論文番号:083

論文	著者	所属	評価
携帯電話を用いた道路料金収受の可能性  本懸賞論文への応募のみ	荻原 渉	専修大学経営学部経営学科4年	普及が低迷しているETCについて、DSRC(専用狭域通信)と携帯電話などの移動通信の融合可能性を実証し、その普及を図ることを論じた好論文である。ETCの現状の問題点を打開し、携帯電話の実現可能な将来の利用可能性を探るといふ提言は説得的である。

平成16年 第20回 入賞 論文番号:087

論文	著者	所属	評価
モバイル環境の変化に伴うモバイルラーニング発展の可能性	小笠山 和幸	専修大学経営学部経営学科4年	携帯電話を用いるプッシュ型のe-ラーニングの可能性について、様々な図表を用いて考察しているところに特色がある。テーマ選択を評価する。

## 電気通信普及財団賞(テレコム社会科学学生賞)受賞論文

平成16年 第20回 入賞 論文番号:090

論文	著者	所属	評価
京都の中小旅館における情報技術の活用	吉岡 靖文 奥村 修平	同志社大学商学部商学科3年 同	京都の中小旅館を救いたいという意図で始められた研究であり、着眼点がユニークである。中小旅館100軒に電話とファックスによるアンケート調査を行い、実証的に検討している点を評価する。

平成16年 第20回 入賞 論文番号:098

論文	著者	所属	評価
無線LANによるデジタル・ディバイド解消への考察	山本 崇 竹村 憲郎	専修大学経営学部経営学科4年	無線LANと無線インターネットを利用することによって、地域におけるデジタルディバイド解消に役立つことを論じており、面白い発想である点を評価する。

平成16年 第20回 入賞 論文番号:035

論文	著者	所属	評価
通信事業における次世代ユニバーサルサービスの設計  修士論文	藤井 資子	慶應義塾大学大学院 経営管理研究科修士2年	民間の参入が難しい過疎地におけるユニバーサルサービスを設計するというアイデアは、タイムリーかつ重要なテーマである。具体的事例を取り入れながら論じており、意欲的な作品である。

## 電気通信普及財団賞(テレコム社会科学学生賞)受賞論文

平成16年 第20回 佳作 論文番号:037

論文	著者	所属	評価
社会ニーズに即したITSの展開と地域活性化	裘寅杰	名古屋大学大学院 理学研究科修士1年	ITSというタイムリーなテーマを扱っており、ETCとICカードの結合に関する提案がユニークである点を評価する。

平成17年 第21回 入賞

論文	著者	所属	評価
音楽配信に関する消費者行動分析-コンジョイント分析によるWTP調査を通して-	太田 充 加藤 幸男 倉茂 美海 澁谷 直幸 永山 裕 廣江 紀子	慶應義塾大学経済学部経済学科3年 同 同 同 同 同	ブロードバンド時代におけるコンテンツビジネスである音楽配信を例にして消費者ニーズを多方面から分析した作品である。社会科学的研究の要件を満たした好論文であり、共同研究としてよくまとまっている。
書き下ろし			

平成17年 第21回 佳作 論文番号:045

論文	著者	所属	評価
異業種交流におけるネットワークの活用	吉田 圭佑 松本 翔太 高岡 優 小西 祥太 深浦 大輔	同志社大学商学部商学科3年 同 同 同 同	中小企業の異業種交流グループ間におけるネットワーク活用の有効性を検証した作品である。独自に着実なアンケート調査を行っている点を評価する。

## 電気通信普及財団賞(テレコム社会科学学生賞)受賞論文

平成17年 第21回 佳作 論文番号:070

論文	著者	所属	評価
携帯電話会社選択の決定要因に関する地域別比較研究	岡本 真弥	愛媛大学法文学部総合政策学科3年	学生を対象としたアンケート調査や携帯電話会社へのヒアリング調査を基に、会社選択の決定要因を地域別に比較分析した共同研究である。独自に実証分析を行いよくまとまっている。
	小川 素良	同	
	勝谷 友加里	同	
	門田 奈津美	同	
	近藤 里美	同	
	坂井 翔吾	同	
	堀内 希	同	

平成17年 第21回 佳作 論文番号:042

論文	著者	所属	評価
中小クリーニング企業の経営革新	平澤 友紀	同志社大学商学部商学科3年	中小クリーニング業界の現状を分析し、ITを利用した場合に飛躍のチャンスがあることを示唆した作品である。身近なところにIT技術活用に向けた丹念な調査である点を評価する。
	加藤 洋子	同	
	國友 鉄平	同	
	大家 俊徳	同	
	宋 基史	同	
	竹浦 英志	同	

## 電気通信普及財団賞(テレコム社会科学学生賞)受賞論文

平成17年 第21回 佳作 論文番号:046

論文	著者	所属	評価
電子マネーによる決済の バリアフリー化	与田 祐樹	青山学院大学国際政治経済 学部国際政治学科4年	電子マネーという重要なテーマを取り上げて、EdyとSuicaを比較し ながら現状分析を行った点を評価する。

平成18年 第22回 入賞

論文	著者	所属	評価
音楽配信の売上がCDの 売上に及ぼす影響—個別 タイトルごとに見たミクロ 的分析—  卒業論文	澁谷 直幸	慶應義塾大学経済学部4年	インターネットによる音楽配信の売上が既存のシングルCD販売の売 上にどのような影響を与えるか、計量的に調査した優れた作品であ る。分析手法の使い方も適切であり、意味のある結論を得ている点 を評価する。

平成18年 第22回 佳作 論文番号:054

論文	著者	所属	評価
ブログ・SNSにおけるサイ バー公共圏の可能性～ ネットコミュニティの現 状と特性～	奥山 貴文	法政大学法学部政治学科3年	サイバー空間を「延長現実」であって現実の「代替空間」ではないとい う前提の下で、その公共圏としての可能性を探ろうとした野心的な作 品である。壮大なテーマに挑戦した点が評価された。



## 電気通信普及財団賞(テレコム社会科学学生賞)受賞論文

平成19年 第23回 入賞 論文番号:062

論文	著者	所属	評価
ECを活用した地域活性化	河西 宏紀 清水 貴之 高木 美幸 谷口 元基 三井 健司 毛利 亜衣 山本 敦司	愛媛大学法文学部総合政策学科 愛媛大学法文学部総合政策学科3年 愛媛大学法文学部総合政策学科3年 愛媛大学法文学部総合政策学科3年 愛媛大学法文学部総合政策学科3年 愛媛大学法文学部総合政策学科3年 愛媛大学法文学部総合政策学科3年	地元の特性を的確に把握するとともに、EC(電子商取引)の利点と欠点を踏まえた上で、「地方の地方」といわれる条件不利地域の発展、活性化のためにECを活用することを提案した、若者らしい内容が評価された。

平成19年 第23回 佳作 論文番号:067

論文	著者	所属	評価
メディア・デザイン論	木下 優子	慶應義塾大学 総合政策学部4年	扱っている領域が広すぎて、焦点が十分に絞られていない点や図、出典、参考文献の処理に難はあるが、技術、社会変動、資本主義、民主主義、社会主義等の本質に関する理解と洞察には深く、鋭いものがある。文章も練れていて読みやすく、潜在能力の高さが感じられる。

平成19年 第23回 佳作 論文番号:039

論文	著者	所属	評価
東アジアにおける国際分業体制	井上 雄介 新井 幸典 荒堀 祥伍 江原 幸恵 長谷川 明代	神戸大学 経済学部 経済学科 3年 神戸大学 経済学部 経済学科 3年 神戸大学 経済学部 経済学科 3年 神戸大学 経済学部 経済学科 3年 神戸大学 経済学部 経済学科 3年	この研究は生産拠点を立地条件にあわせて分化するフラグメンテーションとそれともなうリンクコストとを総合的にとらえる実証分析である。リンクコストの低下とIT技術を結びつけ、東アジアの分業体制と取り組んだ視点が評価された。さらに情報化の具体的なあるべき方策について今後の研究が期待される。

## 電気通信普及財団賞(テレコム社会科学学生賞)受賞論文

平成19年 第23回 佳作

論文	著者	所属	評価
多元主体機構における紛争構造の分析～情報社会の主体間主導権争い～  慶應義塾大学総合政策学部 卒業制作, 2007年7月	森 裕介	慶應義塾大学総合政策学部	2003年と2005年に開催された「世界情報社会サミット(WSIS)」の場において、インターネット・ガバナンスを巡って国際機関、政府、企業、市民がどのような主導権争いをしたかを明らかにすることによって、それが今後「多元主体機構」における合意形成を考える上で一つの前例になることを示した点が評価された。

平成20年 第24回 入賞 論文番号:060

論文	著者	所属	評価
Web上でのクチコミの有効性	田中 照太	慶應義塾大学商学部商学科4年	消費者に対する「クチコミ宣伝」はこれまでも広告代理店などによって行われていたが、インターネットを利用した「クチコミ宣伝」が、消費者行動にどのようなメカニズムによってどのような効果を及ぼすかについての研究である。関連理論を広くカバーしており、調査設計、統計処理の技術も優れている。

## 電気通信普及財団賞(テレコム社会科学学生賞)受賞論文

平成20年 第24回 入賞 論文番号:033

論文	著者	所属	評価
モバイルコンテンツサービスにおける顧客ロイヤリティ形成メカニズムの解明	小林 由弥	北陸先端科学技術大学院大学 知識科学研究科 博士前期課程 2年	携帯電話向けコミック配信サービスに対する顧客のロイヤリティがどのように形成されるのかそのメカニズムを明らかにするために、いくつかの作業仮説を立てた上で定量的な調査を行うと同時に、コミック単行本との比較についても定性的な調査を行い、意味のある結果を得ていることが高く評価された。ロングテール理論の一層の精緻化、またコミック配信サービス以外の他のモバイルコンテンツサービスなどに関して今後の研究の発展が期待される。

平成20年 第24回 佳作 論文番号:079

論文	著者	所属	評価
「青少年ネット規制法と表現の自由」	大島 義則	慶応義塾大学法科大学院法務研究科三年次	青少年ネット規制法について、有害情報の基準、子供の情報受領権・収集権、重大な公益の有無、手段の必要不可欠性等を子細に検討しており、表現の自由に関わる憲法解釈理論として一定水準以上に達していることは評価できる。しかし、ハーバーマスの市民的公共がネット上で実現しようとする前提で問題の有効な解決策となるか、再検討し、なお研究されたい。

## 電気通信普及財団賞(テレコム社会科学学生賞)受賞論文

平成20年 第24回 佳作 論文番号:068

論文	著者	所属	評価
救急医療におけるテレホ ントリアジア活用と有効 性に関する研究	中嶋 香奈 子 根本 由香 里	東京医療保健大学 医療保健 学部 医療情報学科3年 東京医療保健大学 医療保健 学部 医療情報学科3年	通信の新しい社会的利用方法として救急医療という現代の社会の直 面している喫緊の問題をとりあげていることは大きな意義がある。現 場においてどのようなことがなされどこに問題があるのかが報告され ているが、一方で電話相談というところにテレコム利用がとどまって いる点については、今後の発展の方向性を含めてより具体的・建設 的な提言が望まれる。

平成20年 第24回 佳作 論文番号:020

論文	著者	所属	評価
高度情報化社会における 都道府県防災通信ネット ワークの現状と課題への 対応	大石 哲也	静岡大学大学院情報学研究 科修士課程2年	都道府県防災行政無線の回線構成、整備上の課題等について、調 査に基づいて分析をし、代替ルートの確保、予算上の制約などの問 題点を纏めている点で評価できる。市民生活の安全性確保を仕組み として、(なおアナログ主流の)市町村防災無線との連携のあり方、 全国瞬時警報システム(JALERT)の運用などについても、研究の射 程を拡げられたい。

## 電気通信普及財団賞(テレコム社会科学学生賞)受賞論文

平成21年 第25回 入賞 論文番号:016

論文	著者	所属	評価
ネットワーク系電子出版物の収集を通じての納入率向上に関する一考察—国立国会図書館における政府刊行物・民間出版物の納入率向上に向けた政策提言—  未発表の論文	須藤 健一	京都大学大学院公共政策教育部/公共政策専攻1回生	国立国会図書館の「納本漏れ問題」に関して出版物の納入率向上を図るために、豊富な参考文献による国内外の動向の把握・分析を踏まえて、複数の代替案の比較を行い、電子情報化時代に応じた複合的・重層的な納本制度を提言している。本論文で主張しているネットワーク系電子出版物の収集に関するフィージビリティや課題の解決について、今後独自の調査なども含めてさらに発展させることを期待したい。

平成21年 第25回 入賞 論文番号:030

論文	著者	所属	評価
ウェブ上の編集と表現の自由—ニュースサイトを事例として—  未発表の論文 書き下ろし	谷内 誠	筑波大学社会国際学群社会学類法学専攻3年	本論文は、ウェブ上のニュースサイトについて、ニュース素材の自動検索による編集が、従来の表現の自由の法理、編集物と著作権保護の法理とどう関わっていくかを論理的に分析した好著である。今後のネットコンテンツの展開は、既存の法理の限界を超えざるをえず、今後は新しい法理構築の方向をも目指されたい。

平成21年 第25回 佳作 論文番号:037

論文	著者	所属	評価
地域医療連携における通信ネットワークの活用に関する研究  未発表の論文	楠田 佳緒	東京医療保健大学 医療保健学部 医療情報学科 3年	本論文は、山形県荘内地区の病院データを用いて医療連携に情報通信技術をどのように利用すべきかについて先進的な研究を試みたものである。オンライン電子カルテは病歴管理という、必要性はかねてから叫ばれているがなかなか実現しない医療政策上の一つの課題に貢献することが期待されている。この点に着目して実証的な研究がなされていることが評価できる。

## 電気通信普及財団賞(テレコム社会科学学生賞)受賞論文

平成22年 第26回 入賞

論文	著者	所属	評価
真のオピニオン・リーダーは誰か? -社会ネットワーク分析による抽出-	石橋 暢也 中村 智 白石 秀壽	中央大学商学部経営学科4年 中央大学商学部経営学科4年 中央大学商学部経営学科4年	本論文は、消費者の購買行動に大きな影響を与えられ、キーパーソンすなわち「オピニオン・リーダー」について、インターネット上の特定のサイトから独自に抽出したサンプルに社会ネットワーク分析の手法を適用することによって、その存在を確認したものである。クチコミに関する先行研究も十分に踏まえており社会ネットワーク分析の有効性を示したものとして評価できる。ただし、今回の分析は特定の商品のサイトのみからのデータによっており、他の商品のサイトに関しても同様の結果が得られるかどうかを検証することが必要であろう。
未発表の論文 書き下ろし			

平成22年 第26回 佳作 論文番号:050

論文	著者	所属	評価
通信と放送の融合による地域情報化政策の実践と展望 慶應義塾大学和歌山さんぽみちプロジェクト社会実験報告書	次田 尚弘	慶應義塾大学 環境情報学部	和歌山県和歌山市は平成4年から18年にかけて中心商業地の通行量合計が約60%減少するという衰退を示している。これは和歌山市に限らず最近20年間で多くの地方都市に見られる現象で、これをいかに食い止め活性化させるかという課題に、マスメディアとインターネットを活用して取り組んだ活動の記録である。歴史ある都市の衰退に放送・通信がどこまで歯止めをかけられるかというテーマへの具体的な接近のケース・スタディとして評価された。
雑誌/学会誌等 卒業論文 (2010年9月 慶應義塾大学環境情報学部) 東京経済出版社(2010年8月)			

平成22年 第26回 佳作 論文番号:059

論文	著者	所属	評価
日本のテレビ放送番組のネット流通に関する考察	中嶋 由美子	国際教養大学 専門職大学院 発信力情報領域	近年におけるインターネット上の不法にコピーされたテレビ番組の氾濫には目を覆うばかりである。本論文はこうした現状を詳細に記述し、問題点を明らかにし、規制のような「後ろ向き」で消極的な対応策ではなく、安価で簡単に利用できるオンデマンド・システムの拡充など、「前向き」で積極的な対応策の必要性を強調している。
未発表の論文			

## 電気通信普及財団賞(テレコム社会科学学生賞)受賞論文

平成23年 第27回 入賞 論文番号:024

論文	著者	所属	評価
負のeクチコミがもたらす正の効果—クチコミの正負の比率と並び順に着目して—  未発表の論文 書き下ろし	菊盛 真衣	慶應義塾大学大学院商学研究科修士課程1年	ウェブ上でのクチコミ(eクチコミ)が消費者行動に及ぼす社会心理学的研究。クチコミにおいては、一方的に誉めれば誉めるほど効果があるというものではない。多少負の評価がある方が効果的な場合もある。対象商品の種類、クチコミの内容、消費者の属性等による効果の違いを、実験的手法を使って丁寧に実証している。先行研究のレビュー、調査手順、データ分析等がしっかりしている。

平成23年 第27回 佳作 論文番号:042

論文	著者	所属	評価
eクチコミのプラットフォームが製品購買意図に及ぼす影響——消費者関与に着目して——  未発表の論文	相原 由佳 樋口 優美 荻野 真央 佐藤 遼太郎 鈴木 もも 我田 哲之	慶應義塾大学 商学部 小野 晃典ゼミナール 慶應義塾大学 商学部 小野 晃典ゼミナール 慶應義塾大学 商学部 小野 晃典ゼミナール 慶應義塾大学 商学部 小野 晃典ゼミナール 慶應義塾大学 商学部 小野 晃典ゼミナール	この論文は最近社会的にも関心を呼んでいるeクチコミ・プラットフォームの信憑性について慶應義塾大学の学生に対するアンケート調査データにより実証分析を行ったものである。十分に先行研究を展望し、着実な研究のプロセスを踏んでいる点が高く評価できる。問題点としては追試に導入された仮説群が果して相互に個別のものとして識別が可能か否か明確でないことである。仮説で用いられている「態度」「知覚有用性」「購買意図」などについてもアンケートでどれだけ明確な応答が得られるか気にかかる。

## 電気通信普及財団賞(テレコム社会科学学生賞)受賞論文

平成23年 第27回 佳作 論文番号:008

論文	著者	所属	評価
インターネットにおける著作権侵害の準拠法について  未発表の論文 書き下ろし	野間 小百合	広島大学大学院社会科学研究所博士課程後期1年	国境が存在しないインターネット上での著作権侵害に、アップロード・ダウンロードのいずれの国の法律が適用されるか等に関し、「法例」時、「法の適用に関する通則法」施行以後のそれぞれについて、判例・学説を詳細に分析し、整理した論文である点で評価できる。引き続き、映像作品・対戦型ゲームなど具体的事例の分析、裁判所管轄などについて研究を深められたい。

平成24年 第28回 佳作 論文番号:016

論文	著者	所属	評価
インフラへの新しい脅威への対応  未発表の論文 書き下ろし	大澤 健太	学校法人中内学園 流通科学大学 商学部商学科 1年	次々に開発され市場に導入される新しい機器やシステムがIP接続によって社会に普及してゆくとき、人間不在のメカニズムがセキュリティに与えるインパクトを展望したものととして評価された。しかしインフラとセキュリティという抽象的な概念のみではどのような社会的損失が生まれるのかの分析には不十分で今後より掘り下げた研究が期待される。



## 電気通信普及財団賞(テレコム社会科学学生賞)受賞論文

平成26年 第30回 入賞 論文番号:065

論文	著者	所属	評価
オンラインショップの展望と実店舗との共存の可能性の検討—都市部と地方の学生における消費行動の違いに着目して—	芳之内 里紗 石橋 良子 中島 瑞穂 中島 啓太 中田 彩衣 宮川 有紀 吉岡 真悠	愛媛大学法文学部総合政策学科 愛媛大学法文学部総合政策学科 愛媛大学法文学部総合政策学科 愛媛大学法文学部総合政策学科 愛媛大学法文学部総合政策学科 愛媛大学法文学部総合政策学科 愛媛大学法文学部総合政策学科	都市部と地方の学生を対象としたオンラインショップの問題を分析し、具体的な提案まで行っているのは学生論文として評価できる点である。ただし、仮設の理論的根拠や全体としての論理構成には、なお研究を要する。引き続き、首都圏の他の大学の学生や、学生以外の一般消費者(高齢者、主婦など)にも対象を広げて、オンラインショップの可能性について研究したらどうか。
未発表の論文			

平成26年 第30回 佳作 論文番号:040

論文	著者	所属	評価
ケーブルテレビが持つ地域情報の流通機能についての考察—埼玉県事例—	黒山 良洋	東京海洋大学大学院 海洋科学技術研究科 海運ロジスティクス専攻 博士前期課程	海外のケーブルテレビと比較して日本のケーブルテレビの特徴の一つは、豊富な地域情報の発信である。本論文は、地域住民へのアンケート調査を手掛かりに、地域情報の受け手である地域住民の番組評価から、送り手であるケーブルテレビ局に対して具体的な提言を行っている意欲的な研究である。後期博士課程における本研究の深化を期待したい。
未発表の論文 書き下ろし(修士論文に加筆・修正を加えたもの)			



## 電気通信普及財団賞(テレコム社会科学学生賞)受賞論文

平成29年 第33回 佳作 論文番号:007

論文	著者	所属	評価
我が国のDMCAテイクダウンノートの利用実態と問題点  雑誌/学会誌等 情報通信学会誌 第119号(第34巻2号), 2016年9月	安岡 規貴	放送大学大学院文化科学研究科(修士課程)情報学プログラム	米国のデジタルミレニアム著作権法に基づくGoogleに対する削除リクエストは近年、大幅に増加している。サイトオーナーにとってはGoogleのような検索エンジンから除外される影響は多大であるが、そのリクエスト自体の濫用、不正利用も報告されている。本論文では、日本における削除リクエスト利用の実態をGoogleの透明性レポートおよびLumenのデータ分析から明らかにしている。その利用実態の解明プロセスは、明解、緻密である。考察部分が一般的ではあるが、テレコム社会科学学生賞佳作としての評価に値する論文である。

平成30年 第34回 入賞 論文番号:302

論文	著者	所属	評価
ランキングのメディア論 検索エンジン・ランキングの歴史社会的構成。  未発表の論文 東京大学大学院学際情報学府 平成29年度 修士学位論文(未公開)	宇田川 敦史	東京大学大学院学際情報学府 修士課程	本論文は、プラットフォームのランキング機能に注目して、その新たなメディアとして社会的役割を見出していくというきわめて野心的な研究である。特にランキングについて、広い意味でのランク付け(順序付け)の歴史的経緯から現代の検索エンジンの技術的な発展とその社会的な影響までを丹念に考察している点が高く評価できる。研究の今後の発展方向として、SNSやスマートフォンによるWeb2.0以降の議論に期待したい。

## 電気通信普及財団賞(テレコム社会科学学生賞)受賞論文

平成30年 第34回 佳作 論文番号:304

論文	著者	所属	評価
Impact of Mobile Money Adoption on Maternal Health Seeking Behavior: Evidence from Rural Uganda  未発表の論文	江上 弘幸	政策研究大学院大学政策研究科修士課程	途上国では妊産婦死亡率の高さが問題となっており、ウガンダもその一つである。妊産婦検診の実態を詳細に調査した点は評価できる。そのうえで、ODAとNGOを活用して妊産婦検診の受診率向上に向けた政策が必要であるとし、その一つ的手段としてモバイル・マネーの導入を提唱している点も注目に値する。ポテンシャルの高い研究ではあるが、統計分析における説明変数や推計結果について、より丁寧な説明を加えるなど改善すべき点もみられる。

平成30年 第34回 佳作 論文番号:303

論文	著者	所属	評価
雇用型テレワーク組織におけるリーダーシップの特徴と分析  未発表の論文 修士学位論文	安藤 寛之	北陸先端科学技術大学院大学 博士前期課程(先端科学技術専攻)	本論文は先行研究を十分にレビューした後、テレワークを実践している企業についてケーススタディを行ったうえで、テレワークでの組織リーダーシップについて論じており、論文としての完成度が高く評価できる。今後は、5G、クラウドコンピューティングなどの情報通信の高度化の中で、テレワークがどう変容を遂げていくかについて研究を発展させる必要がある。

## 電気通信普及財団賞(テレコム社会科学学生賞)受賞論文

平成31年 第35回 佳作 論文番号:301

論文	著者	所属	評価
<p>青年期女子のインターネットを介した出会いの様相—刹那的人間関係に注目して—</p> <p>未発表の論文</p>	片山 千枝	金沢大学 大学院人間社会環境研究科 博士後期課程	<p>本論文は、インターネットを介した出会いというデリケートなテーマに果敢に取り組んだ力作であり、青年期女子の「出会い経験者」にインタビュー調査を行い、そのような出会いが「刹那的人間関係」になりやすいということを説得的に明らかにしている。今後、調査協力者の規模を広げたり、分析の客観性をより高める工夫をすることで、研究のさらなる発展、深化が期待される。</p>

平成31年 第35回 佳作 論文番号:303

論文	著者	所属	評価
<p>人口減少社会と視聴者の流動性を背景とした民放構造規制の展望</p> <p>未発表の論文 東北大学 大学院情報科学研究科 博士学位論文, 2019年3月</p>	橋本 純次	東北大学 大学院情報科学研究科 人間社会情報科学専攻 博士課程後期3年(2019年3月修了)	<p>本論文は、人口減少と東京への一極集中の中で、地方テレビ局を如何に維持するかという論点を、アンケート調査とインタビューを踏まえて研究し、具体的な提言をしている労作として評価できる。地方局は東京キー局に全面的に経営依存している実態があること、筆者の年代の若者はそもそもテレビを殆ど見ないこと、OTTIによる攻勢に対抗するためには、通信放送融合的なサービスに進出するなど、より根源的な改革が必要であることからすると、提言に物足りなさを感じた。より研究を深められることに期待する。</p>

## 電気通信普及財団賞(テレコム社会科学学生賞)受賞論文

令和02年 第36回 入賞 論文番号:313

論文	著者	所属	評価
<p>コンピュータによる感情評定は注意資源を分配されにくい—感情喚起画像に対する評価プロセスに着目した脳科学的検討—</p> <p>未発表の論文 修士論文の一部(目次や全体的な構成について2020年9月に加筆・修正)</p>	池田 利基	筑波大学大学院 人間総合科学研究科 感性認知脳科学専攻 博士前期課程2年	本論文は、メディアの等式(コンピュータなどのメディアの出力を現実存在するものとして人間が認識すること)という問題について、脳科学的なアプローチから、「コンピュータによる感情評定は注意資源を分配されにくい」という結果以外にもいくつか興味深い結果を導き出しており、論文としての完成度は高い。きわめて限定された実験に基づく結果をAI社会に向けた研究としてどのように発展させていくのか、今後の研究を期待したい。

令和02年 第36回 佳作 論文番号:309

論文	著者	所属	評価
<p>津波避難訓練支援アプリ「逃 がトレ」の開発と社会実装—コミットメントとコンティンジェンシーの相乗作用—</p> <p>雑誌/学会誌等 実験社会心理学研究, 2019年3月</p>	杉山 高志	京都大学大学院情報学研究科 博士後期課程3年	津波避難訓練支援アプリ「逃 がトレ」は有効であると考えられるが、際の避難となった場合に、情報弱者にどう手助けするかという難点は残り、今後の課題である。また、コミットメントとコンティンジェンシーの相乗作用という心理学的・人間行動学的なキー概念を用いて説明しようとしており、院生らしい着眼点であり評価できる。前半の「逃 がトレ」の説明とは十分には噛み合っていない為、引き続き研究されることに期待する。



## 電気通信普及財団賞(テレコム人文学・社会科学学生賞)受賞論文

令和03年 第37回 奨励賞 論文番号:401

論文	著者	所属	評価
Collaborative consumption in China: An empirical investigation of its antecedents and consequences  雑誌/学会誌等 Journal of Retailing and Consumer Services, 2021年9	倪 少文 (Shaowen Ni)	筑波大学 大学院システム情報工学研究科 社会工学専攻 博士後期課程3年	本論文は、シェアリング・エコノミーの進展がコラボ消費にプラスに働くことを、中国の消費者を対象に丁寧な実証分析で示した点は高く評価される。同種の先行研究の多くは欧米諸国を対象としたものであり、中国の事情に詳しい著者のアドバンテージが生かされた論文である。分析結果が日本でも当てはまるのかといった普遍性については疑問であるが、日本、欧米との比較研究も今後のテーマであろう。情報通信との関連性が強い論文ではないが、マーケティング分野での学術的貢献は大きい。

令和03年 第37回 奨励賞 論文番号:409

論文	著者	所属	評価
No More Handshaking: How have COVID-19 pushed the expansion of computer-mediated communication in Japanese idol culture?  雑誌/学会誌等 Proceedings of ACM CHI Conference on Human Factors in Computing Systems, 2021年5月	矢倉 大夢	筑波大学 大学院理工情報生命学術院 システム情報工学研究群 知能機能システム学位プログラム 博士後期課程1年	本論文は、「アイドルとファンの交流」という限られた局面であるものの、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)禍におけるCMCの変容をintervenability(干渉可能性)という新たな関係概念を用いて分析している点は、意欲的・先駆的なものとして評価できる。今後、このintervenabilityという概念の精緻化とそれがどの程度まで有効かという点を吟味していくことが求められる。

## 電気通信普及財団賞(テレコム人文学・社会科学学生賞)受賞論文

令和03年 第37回 奨励賞 論文番号:402

論文	著者	所属	評価
法とアーキテクチャによる非マッチング型プラットフォーム規制の在り方  未発表の論文 学士論文	高木 美南	九州大学 芸術工学部 芸術情報設計学科4年	本論文は、非マッチング型プラットフォーム規制について、法とアーキテクチャによる規制に加え、両者の関係性について名誉毀損、著作権侵害、フェイクニュース規制など5つの分野を取り上げて検討を加えた意欲作である。5つの分野はそれぞれ1つの論文で検討をすることも可能なテーマであり、各テーマの掘り下げは十分とはいえないところもあるが、学部生の卒業論文としては、それらをとても上手く整理・分析した優れた論文である。

令和04年 第38回 奨励賞 論文番号:404

論文	著者	所属	評価
対話的構築主義によるジャーナリズムの戦争証言インタビューの再検討～NHK戦争証言アーカイブスを事例として～  雑誌/学会誌等『社会学評論』72巻3号、294-311頁、2021年12月	佐藤 信吾	慶應義塾大学大学院社会学研究科社会学専攻博士課程	本論文は、NHKが公開している「戦争証言アーカイブス」にある2つの証言を分析することで、戦争証言を「聞き手＝ジャーナリスト」の構図でとらえる重要性を確認し、その視点から分析を積み上げる必要性を指摘する。情報通信というよりジャーナリズムの研究だが、インターネットによって可能になった戦争体験者の証言のアーカイブス化に着目し、その学術利用の可能性を示した点で、ドキュメンタリー研究への学術的貢献は大きい。

令和04年 第38回 奨励賞 論文番号:403

論文	著者	所属	評価
オンライン脱抑制:構成概念の再考と新たなモデルの提案  雑誌/学会誌等 心理学評論/心理学評論刊行会、2022年10月	温 若寒 三浦 麻子	大阪大学大学院人間科学研究科博士前期課程2年 大阪大学大学院人間科学研究科	本論文では、リアルな世界においてはある程度働いていると認められる心理的な「抑制効果」がオンラインの世界では必ずしも効かなくなること、すなわち「オンライン脱抑制」について関連文献を丁寧にレビューした上で、それを「心的状態」と見なし、内的動機と外的要因が行動につながるパスを調整するものであるという視点は評価できる。筆者が提唱している「動機付け・オンライン脱抑制モデル(MODモデル)」の有効性、さらには社会的な応用可能性については今後の課題である。

## 電気通信普及財団賞(テレコム人文学・社会科学学生賞)受賞論文

令和05年 第39回 入賞 論文番号:401

論文	著者	所属	評価
Information and communication technology use by students with disabilities in higher education during the COVID-19 pandemic  雑誌／学会誌等 Universal Access in the Information Society, 2023年5月	岸良 隼人 佐々木 銀河	筑波大学人間学群障害科学類4年次 筑波大学人間系	コロナ禍において大学では遠隔ビデオ授業が主流となった。本論文では、こうした機会を捉えて、障がいのある学生とない学生の遠隔授業に対する困難さや利便性、授業に対する認識の変化をアンケート調査の結果を分析しており、その結果はきわめて有意義である。調査にあたって倫理的な考慮も払われていて、研究成果は今後の大学における遠隔授業のユニバーサルデザイン実現にも貢献すると評価できる。

令和05年 第39回 奨励賞 論文番号:404

論文	著者	所属	評価
地上波テレビ放送局の番組編成差別化と広告価格に関する実証分析  雑誌／学会誌等 公益事業研究, 2023年9月	渡邊 祐作	神戸大学大学院経営学研究科 博士課程後期課程	本作は、地上波テレビ番組編成と広告価格に関する実証分析を試みた論文として、評価に値する。ケーブルTVとOTTIにより、ポトルネットワーク性を喪失しつつあるアメリカ地上波と日本の民放とでは状況が異なる。また公表されている視聴率に価格が連動しており、両面市場性がより明確なスポットCMを、より直接的な分析の対象とすることが、今後望まれる。

## 電気通信普及財団賞(テレコム人文学・社会科学学生賞)受賞論文

令和06年 第40回 入賞 論文番号:406

論文	著者	所属	評価
Introducing an “invisible enemy”: A case study of knowledge construction regarding microplastics in Japanese Wikipedia  雑誌／学会誌等 new media & society, 2023年1月	FU Mengyuan 楊 鯤昊 藤垣 裕子	東京大学大学院総合文化研究科広域科学専攻 博士課程3年生 中央学院大学法学部 東京大学大学院総合文化研究科	マイクロプラスチックという環境問題を取り上げ、Wikipediaの編集履歴を分析し、この問題に対する社会的認識をとらえていこうとするアプローチは新規性に富んだ実証分析である。Wikipediaの記事の信頼性は以前よりかなり高まってきており、信頼性の高い百科事典項目としてふさわしい編集経緯をえているかは、重要な研究対象である。今後、AI生成のWikipediaという点も考えられ、また他の記事での応用可能性についての議論など、さらなる研究の深化が期待される論文である。

令和06年 第40回 入賞 論文番号:408

論文	著者	所属	評価
Ambidextrous Product Development Management: Exploration and Exploitation in Iterative Innovation  雑誌／学会誌等 PDMA & JPIM Research Forum 2023, 2023年9月	山本 将也 立本 博文	筑波大学大学院 人文社会ビジネス科学学術院ビジネス科学研究群経営学学位プログラム 博士後期課程 2年 筑波大学ビジネスサイエンス系 教授	Iterative Innovationを探索型と活用型に分類した上で、大手IT企業のWebアプリ開発のデータを用いて実証的に分析した論文である。データの収集・整理、作業仮説の立て方とその統計分析はよくまとめられており、分析結果の解釈も説得的である。データの基本統計量も含めたもう少し詳しい説明および結果の経営戦略へのインプリケーションが加わると、本研究の意義がより高まると思われる。

## 電気通信普及財団賞(テレコム人文学・社会科学学生賞)受賞論文

令和06年 第40回 奨励賞 論文番号:407

論文	著者	所属	評価
<p>身体を保護法益とする抽象的危険犯としての誹謗中傷等罪に関する試案</p> <p>未発表の論文 慶應義塾大学メディア・コミュニケーション研究所修了論文</p>	黒川 真輝	慶應義塾大学法学部法律学科4年	インターネット上の誹謗中傷対策の一環として刑法の侮辱罪(231条)の法定刑が引き上げられたが、対策としてなお不十分であるとの問題意識から、外国の議論も参考として「精神」という意味における「身体」を刑法の保護法益として設定し、抽象的危険犯として構成すべきことを提案しているところに、本作品の独自性がある。今後、法曹としての経験を積みながら、刑事立法による誹謗中傷対策についての思考を深めることを期待する。

令和06年 第40回 奨励賞 論文番号:402

論文	著者	所属	評価
<p>携帯電話とインターネットの普及に関する実証研究～イノベーション普及モデルを用いた加速期・成熟期の特定と普及要因の検証～</p> <p>未発表の論文 修士学位論文</p>	江口 修平	九州大学大学院経済学府 経済システム専攻 修士課程1年	本論文は、外生的に与えられた制度が携帯電話やインターネットの普及に及ぼす影響を分析している。問題設定や分析アプローチについては多くの先行研究があり新規性や、推定結果について目新しさはないかもしれないが、著者は先行研究を踏まえた上で最新のデータを丹念に収集し、実証分析を行っている。推定結果の解釈など説得力のある論文で、著者の緻密な努力の跡が見て取れる論文で高く評価する。今後の一層の研究成果を期待したい。

令和07年 第41回 入賞 論文番号:403

論文	著者	所属	評価
<p>IEEE 802.3規格の形成過程</p> <p>未発表の論文 修士論文</p>	大内 孝子	東京科学大学 環境・社会理工学院 修士課2年	本論文は、IEEE 802委員会におけるEthernet(802.3)規格成立の過程を、一次資料と関連文書の精査に基づいて丹念に再構成した研究である。標準化をめぐる技術的選択と組織間の調整を、モジュールやファクトの視角から捉え、協調と競争が交錯するダイナミズムを明快に描いている。情報通信技術の標準化を社会的プロセスとして捉える独創的視点は、技術史のみならず、現代の情報技術ガバナンスにも示唆を与える完成度の高い論文である。

## 電気通信普及財団賞(テレコム人文学・社会科学学生賞)受賞論文

令和07年 第41回 奨励賞 論文番号:405

論文	著者	所属	評価
<p>Mobile phones, off-farm income and employment of rural women: Evidence from Bangladesh</p> <p>雑誌／学会誌等Asian Development Policy Report Back Ground Paper, 2025年5月</p>	<p>松浦 正典</p> <p>Abu Hayat Md. Saiful Islam</p> <p>Salauddin Tauseef</p> <p>Shu Tian</p>	<p>政策研究大学院大学政策研究科政策分析プログラム博士課程1年</p> <p>Bangladesh Agricultural University</p> <p>International Food Policy Research Institute</p> <p>Asian Development Bank</p>	<p>本論文は、バングラデシュ農村部を対象に、女性の携帯電話保有が就業形態や所得に与える影響を家計パネルデータで実証分析した研究である。携帯電話保有を意思決定主体に着目して定義し、内生性に配慮した計量分析を行っている点が評価される。携帯電話の普及が女性の非農業就業や所得機会の拡大と結び付く可能性を示し、情報通信技術がジェンダー格差是正と包摂的成長に果たす役割を具体的に明らかにした、完成度の高い論文である。</p>

令和07年 第41回 奨励賞 論文番号:404

論文	著者	所属	評価
<p>ICT産業における国際分業と付加価値の分配—国際産業連関表を用いた多国間の相互依存関係に関する実証分析—</p> <p>未発表の論文 修士論文</p>	<p>光吉 佑莉加</p>	<p>九州大学経済学府 修士課程2年</p>	<p>本論文は、OECDが公表している国際産業連関(2023年版)を使って、国際分業が進展しているICT産業の現状等を分析した修士論文で、完成度は高い。問題設定や分析方法などは目新しいものではないが、分析から得られた結果は妥当なものである。分析結果から導かれる政策提言はないが、丁寧な分析がされている点を評価する。今後の研究が期待される論文である。</p>